

しんち九条の会だより

第13号

2007/11/20

広がる九条の会

10月現在 全国で6734

しんち九条の会が発足したのは、およそ1年半前の、2006年4月でした。その頃は、全国で約4000の「九条の会」が結成されていましたが、その後もどんどん増えて、現在は7000近くになっているようです。つまり、それだけ日本国憲法を守らなければならないと考える人々が、行動をするようになったということだと思います。

日本国憲法は、今年の11月3日で公布から61年が過ぎたわけですが、憲法に関する論議も活発になりました。特に安倍政権は、憲法改正の手続きを定めた「国民投票法」を強行成立させましたが、その結果、参院選で歴史的な大敗を喫しました。それは国民の大半が「戦争はもう絶対にいやだ」と思っているからではないでしょうか。

過日「広島平和記念資料館」を見る機会がありました。

1945年8月6日、午前8時15分 広島市上空を襲った、青白い巨大な怪光、そして大地を揺るがす轟音、物凄い爆風と熱波、目には見えない放射線の猛威。この原爆投下によって、推定11万8千人ほどの人々が一瞬にして、或はその後苦しみながら死んでいったと言われています。重軽傷者、生死不明者の数はおよそ8万1千人なので、当時の広島の人口・約40万の半数以上が犠牲になったことになります。

資料館に入ると、地獄と化した「死の町・広島」の見渡す限り焼け爛れた瓦礫の写真をはじめ、さまざまなものが展示してありました。特に被爆した時13歳だった少女の焼けただれた夏服。崩れた家の下敷きになりながらも、幼い弟と自力で抜け出した18歳の少女の抜け落ちた髪の毛(弟はその後死亡)。行方が分からず生死も不明な少女の足跡が残っている下駄。12歳～14歳の少年達が身につけていた学生服や帽子、ゲートルなどの遺品。小さな女の子のワンピースなど、見ているうちに、だんだん息苦しくなってきた、深いため息とともに資料館を出ました。

なお、隣にある原爆ドームの碑には次のような文字が刻まれています。

原爆ドーム

昭和20年8月6日 史上はじめての原子爆弾によって破壊された旧広島県産業奨励館の残骸である
爆弾はこの建物のほぼ真上約600メートルの空中で爆発した
その1個の爆弾によって20万をこえる人々の生命が失われ 半径約2キロメートルに及ぶ市街地が廃墟と化した この悲痛な事実を後世に伝え人類の戒めとするため 国の内外の平和を願う多数の人々の寄金によって補強工事を施し これを永久に保存する

昭和42年8月6日 広島市

日本国憲法第9条

日本国民は正義と秩序を基本とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては永久にこれを放棄する。

前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力はこれを保持しない。国の交戦権はこれを認めない。

九条の会のあゆみ

2004年6月「会」発足の記者会見

9月 大阪講演会に3700人、京都講演会に2000人

11月 仙台、札幌、那覇で講演会

05年2月 横浜講演会に5000人

5月 「会」が全国で2000を突破

7月 有明講演会に9500人 「会」全国で3000突破

06年1月 「会」全国で4000突破

11月 大回憲法セミナー(東京)

07年3月 第2回、第3回憲法セミナー

ユートピア

しんち九条の会代表 目黒 美津英

◇・・・作家の村上 龍が「この国には何でもある。だが希望だけがない・・・」と言っています。

たしかに現在の世相は、そんな思いを抱かせます。仏教思想から生まれた・末法(まっぽう)の世という説があり、1052年(永承7)から末法時代、すなわち乱れた世が続くといわれています。

◇・・・真実はどうなのか分かりませんが、多くの人たちにとって、日本の社会のみでなく全世界の現状が「これが21世紀の姿なのか」とためいきをつかせる状況です。

◇・・・しかし確実に言えることは、過去はもっと厳しい道を歩んできているということです。過ぎ去った時代は、なんとなく美しく楽しく見えます。とくに時代が遠ざかるほど残るのは、多く勝者や権力者で、それらは突出した勇者や強大な為政者としてクローズアップされます。

◇・・・だがそれらの時代一般の民衆はどんな生活を送っていたのか、そして社会の実態や国と国との関係はどうだったのかとなると、現在よりよい時世があったとは思われないのです。



◇・・・私たちは、過去の歴史を通して正すべきものを見極め、未来に向かってより良い社会の実現をめざして努力することが大事なのではないのでしょうか。

南京大虐殺記念館

ある新聞の記事によると、中国に「南京大虐殺記念館」というのがあるそうです。

そこには、日本の高校生も修学旅行などで訪れるそうですが、彼らの感想には、「日本人が中国人にどれだけひどいことをしたのかがよく分かった。このような行為は、同じ日本人として、絶対に許されるものではなく、とても恥ずかしく思った。」とか「あまりにも無残な写真を見ていくごとに、涙があふれでていた。私と同じ日本人が中国人に対して人間のすることじゃないことをしていたなんて。私は彼らと同じ日本人であることが恥ずかしかった。」などということが書かれていたそうです。

これに対して、ある県の県議会が修学旅行先からこの「南京大虐殺記念館」を除くよう求めた陳情を採択したそうですが、その内容は「政治的宣伝の場に生徒を誘導し、反国家的教育をすることがあってはならない」ということですが、少し変だと思いませんか？

新地町の文化財

北原製鉄遺跡

この遺跡は、海岸から約3kmのところであり、新地町と宮城県山元町さかいに近い新地北工業団地の敷地内にある製鉄遺跡です。

丘の南側・西側斜面にはテッサイ(鉄を作る時にできるしぼりかすがかたまってできる石でかなご石とも呼ばれる)や羽口などが観察されます。

年代を決めるような土器などは見つかっていないようですが、武井(ぶい)地区や向田(むかいだ)地区の製鉄遺跡で出土したものと同一ような羽口などが見られることから、7世紀～10世紀に鉄が作られていたと考えられているようです。

斜面にピンポールなどの棒をつきさすと、かたい石のような層にあたる場所があって、そこは鉄をつくるための製鉄炉から流れ出した鉄のかすがかたまつたハイサイバと考えられ、その上の方に製鉄炉がある可能性が高いということです。

なお、この遺跡は「福島ニチアス株式会社」の敷地内になっているので、見学を希望する場合は、福島ニチアス(株)に連絡する必要があるそうです。

